

1 研究主題

主体的・協働的に学ぶ児童の育成
～資質・能力ベースの授業づくり（算数科）～

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

本校は、教育目標を『鍛える』～心豊かでたくましい子どもの育成～としており、目ざす児童像として、①しっかり考え行動する子、②自分も友達も大切にできる子、③心身ともにたくましい子、④仲間と協力できる子、⑤ねばり強く最後まで頑張る子を掲げている。

本校はこれまで、主体的・協働的に学ぶ児童の育成を目ざして、算数科の授業を中心に対話と振り返りを重視した授業づくりを校内研修の大きな柱として位置付けてきた。昨年度拠点校として取り組んだ「学力向上推進対策事業・授業づくり講座」を通して、従来の内容ベースの単元計画・授業展開からの脱却が求められており、単元を通して付けたい資質・能力を明らかにし、ゴール像から単元構想や授業展開を組み立てていくことの重要性を確認した。そこで、今年度は、対話と振り返りを活性化させることで、主体的かつ協働的な学びを確立するとともに、資質・能力ベースの単元・授業構想を実践していくことで、深い学びの実現へ迫っていく。したがって、これまでの校内研究の取組を基盤としながら、さらに資質・能力ベースで単元や授業を見直していく必要があり、これまでとは異なった視点での教材研究が求められることになる。児童は1時間の中で、自身が習得した資質・能力を自覚し、それらを活用する力を身に付けていかなければならない。これまで以上に「脳みそに汗をかく」ことになるだろう。

以上のことから、この研究主題を推進することで教育目標の具現化に繋がるものとする。

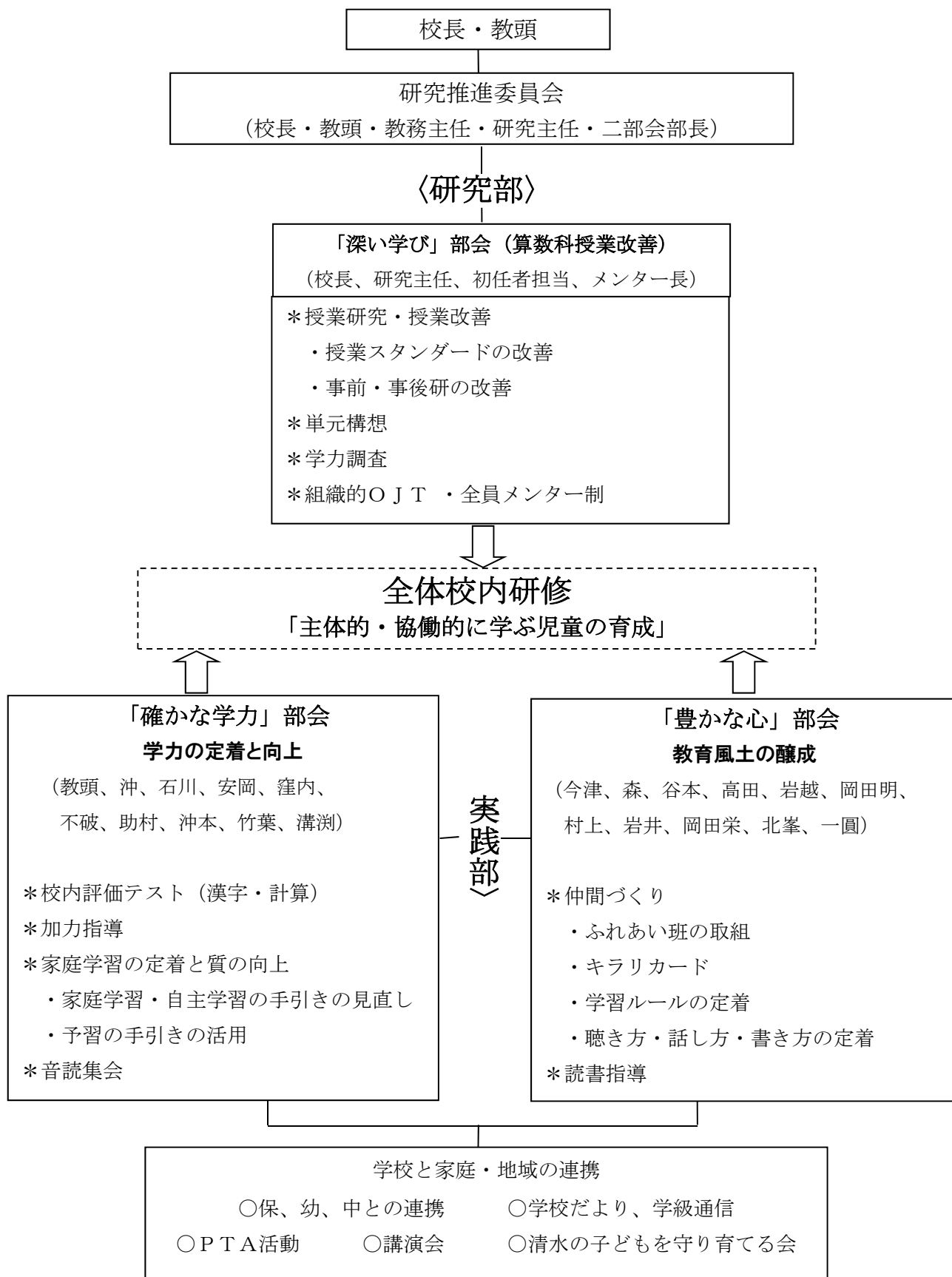
(2) 児童の実態と各種学力調査の結果から

本校の児童は、人懐っこく、明るく元気で、指示された学習課題に対してまじめに取り組むことができる児童が多い。一方で、学力や家庭学習や読書量の差に顕れる学習習慣の個人差や、学校や家庭における生活習慣・態度などに課題が見られる。

平成30年度に実施した全国学力・学習状況調査と高知県学力定着状況調査の結果においては、4・5・6年とも、理科以外の科目で全国（全国学テ）・県（県版学テ）の平均値を上回ることができた。2～5年生対象の標準学力調査でも、算数科の平均正答率は2年以外全国平均を上回っていた。さらに、1月に1～3年が受検したCRT検査では1評定（算数）の割合はわずかに4.3%（目標7%未満）であり、2年の正答率も全国平均を上回っていた。一方で、若年教員と中堅・ベテラン教員との学級間で大きな差が見られたり、無回答率が高かったりする結果も見出された。したがって、今後は組織的OJTや全員メンター制のさらなる改善と発展を進め、教員全体の授業力の向上と、学校全体で決まったことは、全員が着実に実践していくことを徹底していく必要がある。

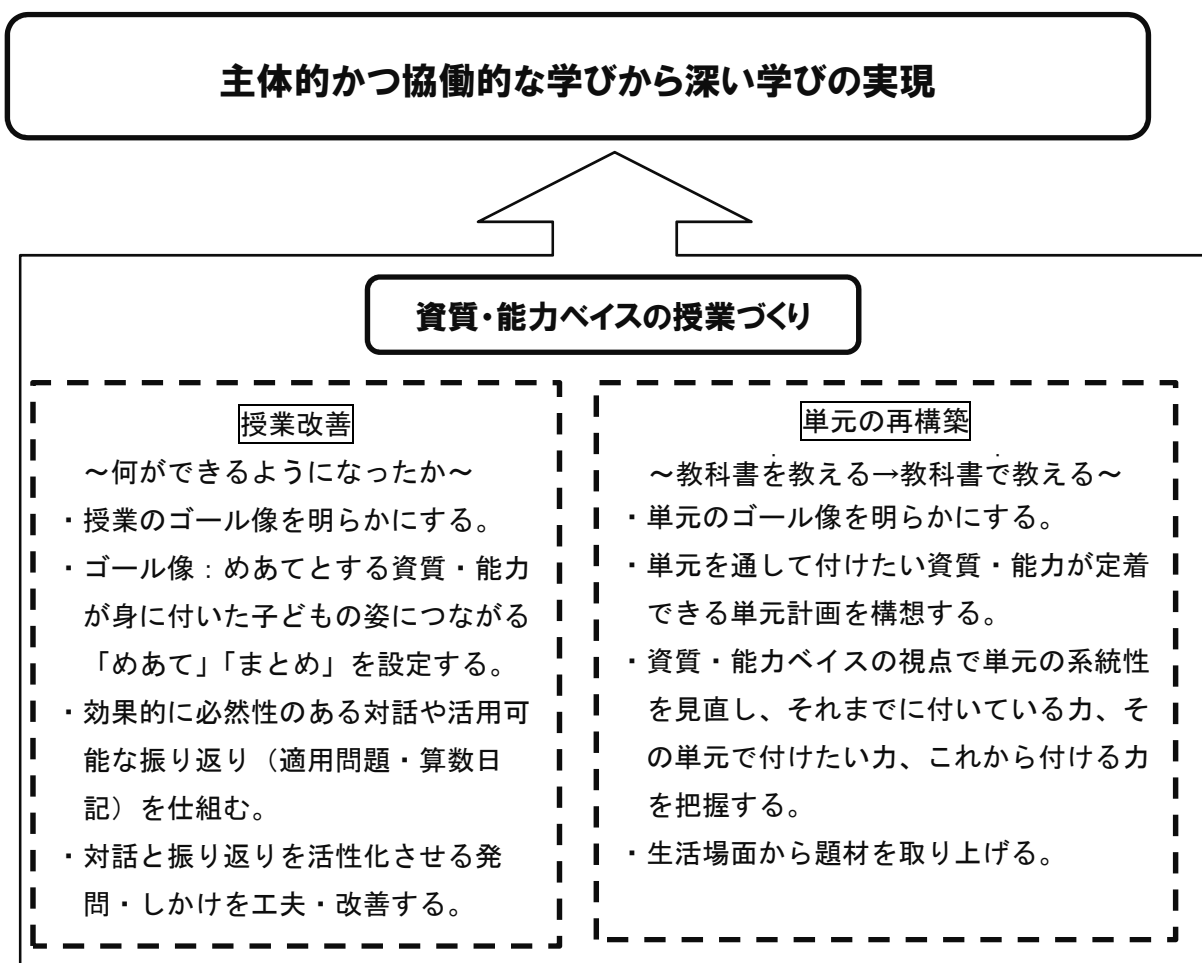
そこで、研究部として『深い学び部会』、実践部として『確かな学力部会』『豊かな心部会』の3部会で組織的なOJTに取り組み、研究を具現化していくとともに、校内研修の効率化を進めていくこととした。

3 令和元年度 研究組織図



4 研究目標と内容等について

(1) 目標



(2) 昨年度までの研究課題

- ①必然性のある対話・・・受動的な対話、形骸化された対話に陥りがちである。
- ②活用可能な振り返り・・・適用問題と練習問題が混同されている。算数日記に次時や他教科、生活への振り返りが書かれていない。
- ③活用力の育成・・・記述による説明、多くの手順を要する問題に課題がある。
- ④学習習慣の形成・・・学習ルールの定着が十分でない。家庭学習の提出率や予習の割合は改善されてきたが、内容に個人差がある。教師の点検も徹底できていない学級もあった。
- ⑤教育風土の創造・・・学び合い、高め合いが進んでできる学習集団に至っていない。
- ⑥学級間の学力差・・・各学力調査の結果、学級間で大きな開きがある学年が多かった。
- ⑦授業力・指導技術の個人差・・・若年教員の割合が増え、経験不足からくる授業力や指導技術の差が目立つようになった。

(3) 具体的な研究内容

- 1人1研究授業
 - ・全校研（公開校内研）×3（算数・道徳・外国語）
 - ・ブロック研（学級担任は算数、専科担当は専科教科）
 - ・「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト・授業づくり講座（算数科）
- 授業スタンダードに沿った授業改善
 - ・資質・能力ベースのまとめから授業展開を考える
 - ・必然性のある対話、振り返り（適用問題・算数日記）の確保
 - ・発言やつぶやきをつなげて、広げる教師の発問・働きかけの工夫・改善
- 聴く・話す・書く力の系統的な育成
 - ・「聴き方・話し方・書き方」の手引き＝「学習ルール」の見直し
 - ・聴く・話す・書く力の定期的な検証
- 活用力（思考力・判断力・表現力）の系統的な育成
 - ・音読集会の定期的な開催・・・感想を述べる・書くも徹底する
- ノート指導の徹底
 - ・「ノート指導スタンダード」を全員に徹底させる。
 - ・算数科授業の板書画像の保存
 - 若年教員：全単元毎時間、中堅・ベテラン教員：研究授業
 - ・ノート指導実践交流会を年2回行う
- 単元を通して身に付ける資質・能力の明確化と単元計画の再構築
 - ・研究授業を行う単元の、単元指導計画を根本的に見直す。
 - ・全校研（算数）、授業づくり講座で扱う単元では、再構築した単元構想を作成する。
 - ※H30の6年比例、5年割合、4年面積、1年ひき算の指導案を参照
- 学年・ブロック会の活性化・組織的OJTと全員メンター制の拡充
 - ・月に1回以上は学年・ブロック会の機会を確保する。
 - ・学力調査の分析や、各スタンダード・手引き等の見直し等は学年・ブロック会で行う。
- 授業観察・授業評価システムの継続と発展
 - ・若年教員は定期的の中堅・ベテラン教員の授業を観察する。
 - ・若年教員の授業を管理職・級外だけでなく、該当学年・ブロックの教員も評価する。
- カリキュラムマネジメント+行事等の見直しと改善による働き方改革
 - ・カリキュラムの配列や行事等の見直し、組み直しを行い、重なりや無駄な時間を省く。

(4) 校内研修計画の概要

- ・年度初め、学期末、年度末を除いて、原則月1回の校内研と学年・ブロック会
- 例・・・第1週：職員会、第2週：校内研、第3週：学年・ブロック会、第4週：予備
- ・授業づくり講座の日程が決まり次第、校内研修計画に加える。
- ・全校研・・・6月：道徳、11月：算数、2月：外国語
 - 全て公開校内研とし、講師を招聘する。また、事前研で模擬授業を行う。
- ・ブロック研・・・学年・ブロックで事前・事後研も行う。

5 授業改善

(1) 公開・研究・提案授業等の実施内容一覧

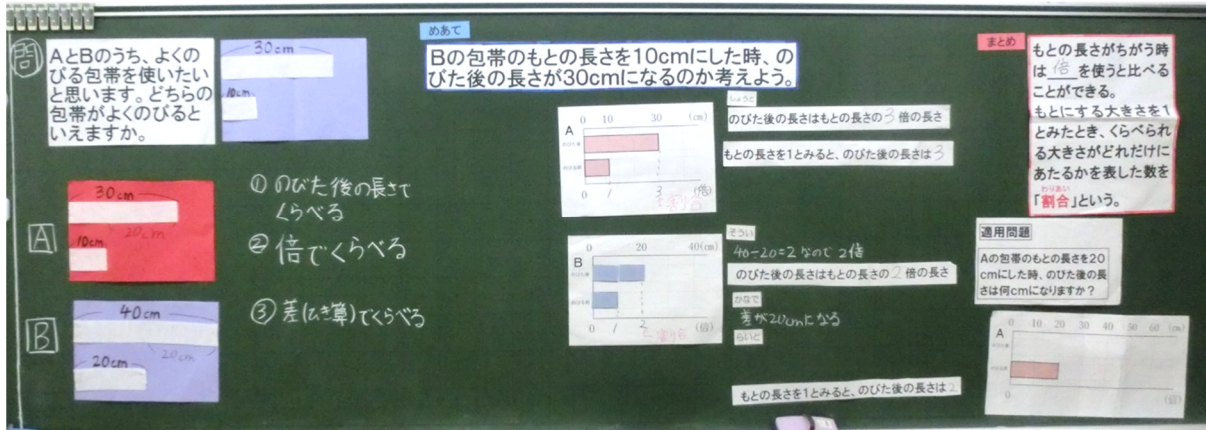
令和元年度 授業者一覧表						
種類	クラス	授業日	教科	単元名	授業者	備考
提案	5年2組	4月17日	算数	ものの大きさの比べ方を考えよう	松本 哲郎	指導案様式も提案
公開	なかよし1	5月15日	自立	なかよしチャレンジ	岩越 恵	4クラス同時公開
	なかよし2		生活	カレンダーを作ろう	岡田 明子	
	なかよし3		自立	相手に伝わるように読み聞かせをしよう	沖本 花苗	
	なかよし4		自立	『広告』となかよきましょう	村上 美和	
全校研	2年2組	6月26日	道徳	めれたボール	安岡 恵美	西部教育事務所・講師招聘
全校研	3年2組	11月13日	算数	重さを数で表わそう	窪内 知佳	西部教育事務所・講師招聘 初任研・指導案C
全校研	6年1組	2月12日	外国語	Unit7 My Best Memory	沖本 花苗	西部教育事務所・講師招聘
授業づくり講座	4年1組	研:7月18日 授:9月12日	算数	簡単な割合	高田 敦斗	・「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクトにおける授業づくり講座 ・学力向上統括専門官の参観授業
	1年2組	研:12月12日 授:2月14日	算数	かたちづくり	石川 有紗	
ブロック研	1年1組	12月6日	算数	ずをつかってかんがえよう	森 里恵	管理職による観察授業と兼ねる
	3年1組	12月11日	算数	分数	小川登美夫	
	4年2組	1月24日	算数	小数のかけ算とわり算	不破 由美子	
	5年1組	10月31日	算数	単位量当たりの大きさ	沖 真紀	
	5年2組	11月1日	算数	単位量当たりの大きさ	松本 哲郎	
	6年1組	12月4日	算数	比例・反比例	今津 好智	
	6年2組	12月10日	算数	比例・反比例	助村 紗恵	
	5年2組	12月5日	音楽	日本の民謡をたずねて おきなわの民謡であそぼう	岩井 優子	
初任者研 ※ブロック研・観察授業と兼ねる	2年1組	6月5日	算数	長さをはかろう	谷本 誠弥	指導案A
		10月9日	算数	形をしらべよう		指導案B
		11月20日	算数	新しい計算を考えよう		指導案C
初任者研 ※全校研・観察授業と兼ねる	3年2組	6月26日	算数	計算のしかたをくふうしよう	窪内 知佳	指導案A
		9月27日	算数	かけ算の筆算(1)		指導案B
		11月13日	算数	重さを数で表わそう		指導案C
2年次研 ※ブロック研・観察授業と兼ねる	4年1組	6月14日			高田 敦斗	授業実践①
						授業実践②
3年次研 ※ブロック研・観察授業と兼ねる	1年2組	7月10日	国語	大きなかぶ	石川 有紗	授業実践①
		10月18日	国語	サラダでげんき		授業実践②
10年次研 ※ブロック研・観察授業と兼ねる	6年1組	6月～7月	体育	水泳	今津 好智	
		11月～12月	体育	ハードル走		

◎全教員が1回以上の公開授業を行う。

◎全校研は各ブロックで指導案検討・教材研究をした上で、全体の事前研に臨む。模擬授業も行う。

(2) 授業の実践例：『簡単な場合についての割合』4年2組

～令和元年9月12日(水) 授業づくり講座I・授業研究会より～



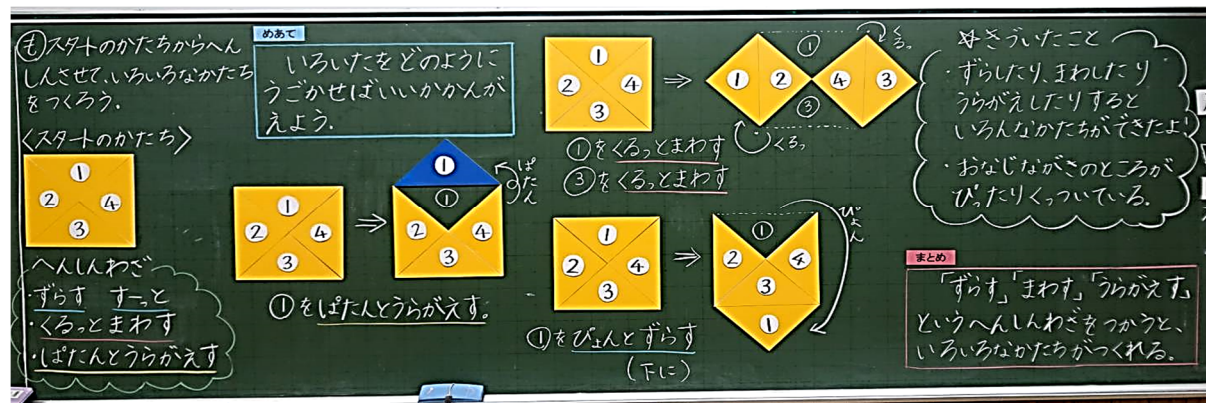
齋藤一弥学力向上総括専門官からの助言

○単元の再々考を行う

- ①既習（倍を求める除法の意味理解）を生かす
- ②既習との違いを見極める（ある二つの量の関係と別の二つの量の関係の比較を問う）
- ③次を見据える（5年生の割合につながる小数倍を視野に入れて指導する）

(3) 授業の実践例：『かたちあそび・かたちづくり』1年2組

～令和元年9月12日(水) 授業づくり講座II・教材研究会より～



齋藤一弥学力向上総括専門官からの助言

- 1年生ではものの形への着目。2年生以上では形が捨象された図形
- 概念形成の5つのプロセスを大切にする
- 子どもの経験に開かれた学びにする

- ①違っているけど、似ているものがあるという認識。ある観点から見ると同じに見られる。
- ②同じと見ることができると集合を作る。
- ③同じ集合に言葉（ラベル）をつける。
- ④概念の性質を明らかにする。
- ⑤他の概念との異同関係を明らかにする。

6 研究の成果と課題

学習指導案の形式を資質・能力ベースに改めたことで、既習事項や付けたい力が明確になった。また、日常生活場面を学習の題材に扱うなど、授業づくりの在り方にも変化が出てきた。しかし、授業づくり講座（算数科）の研究を校内全体で進める点では課題が残った。公開授業を行う学年での授業づくりが中心となり、校内全体で授業をつくっていくことができなかった。来年度は校内全体で研究を進め、共通理解を図っていくことを重視したい。